

# 我が国におけるリアルワールドデータ 利活用基盤整備シンポジウム

## — 京都大学の取り組み —

「AMED 革新的医療技術研究開発推進事業(AIMGAIN-武藤班)」及び  
「がん登録データを活用したリアルワールドデータ収集に関する  
多施設共同研究(J-CONNECTプロジェクト※)」合同シンポジウムを開催

開催日時

2024

10/11<sup>日</sup>

15:00 - 18:00

開催場所

京都大学医学部構内 芝蘭会館稲盛ホール

※Webとのハイブリッド形式での開催

### 参加予定者(プロジェクト関係者)

Participants



京都大学大学院医学研究科  
腫瘍内科学講座

武藤 学 教授



京都大学大学院医学研究科  
リアルワールドデータ  
研究開発講座

松本 繁巳 特定教授

#### J-CONNECT 参画医療機関

25施設

#### J-CONNECT 参画企業

アストラゼネカ株式会社

武田薬品工業株式会社

中外製薬株式会社

#### J-CONNECT 支援企業

新医療リアルワールドデータ

研究機構株式会社(PRIME-R)

#### AIMGAIN 産学官共同研究企業

日本電信電話株式会社

キヤノンメディカルシステムズ株式会社

H.U.グループホールディングス株式会社

ArkMS株式会社

NTTデータ株式会社

富士通Japan株式会社

PSP株式会社

アハクラフト株式会社

### 当日のプログラム(予定)

Program

1	開会の挨拶 (武藤 学)	15:00-15:05
2	ご挨拶 (京都大学成長戦略本部企画管理部長 阿曾沼 慎司)	15:05-15:10
3	ご挨拶 (AMED研究開発推進室長 浅野 武夫様)	15:10-15:15
4	基調講演「京都大学がめざすRWD収集基盤整備プロジェクト概要」 (武藤 学)	15:15-15:35
5	我が国における電子カルテを活用した医療データベース構築の阻害要因とその克服 (松本繁巳)	15:35-15:45
6	CyberOncologyが切り開くRWD利活用の未来 (PRIME-R)	15:45-16:05
7	RECIST計測支援を含むクラウド型中央画像判定システム、及び測定データ集積とそのRWDでの活用 (キヤノンメディカルシステムズ/ArkMS/PSP)	16:05-16:25
8	臨床検査運用のデジタル化と、検査データの構造化によるRWD基盤整備 (HUホールディング/富士通 Japan)	16:25-16:45
9	DXが創る治験の未来:PhambieLINQが実現する治験業務の変革とDCTへの挑戦 (NTTデータ)	16:45-17:05
	休憩10分	
10	パネルディスカッション	17:15-17:30
11	質疑応答	17:30-17:45
12	講評 (AIMGAINプログラム・スーパーバイザー 千葉 勉先生、プログラムオフィサー 中村 健一先生)	17:45-17:55
13	閉会の挨拶 (武藤 学)	17:55-18:00

# 我が国におけるリアルワールドデータ利活用基盤整備シンポジウム

## ー京都大学の取り組みー

このたび、「AMED 革新的医療技術研究開発推進事業 (AIMGAIN-武藤班)」及び「がん登録データを活用したリアルワールドデータ収集に関する多施設共同研究 (J-CONNECT プロジェクト※)」合同シンポジウムを開催しますので、ご案内いたします。

令和5年3月に閣議決定された第4期がん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、すべての国民とがんの克服を目指すこと」が全体目標に掲げられ、それを支える基盤として「がん登録の利活用の推進」と「デジタル化の推進」が分野別目標に掲げられています。しかしながら、わが国における医療デジタル化は、先進国のなかでも遅れていることは否めず、実臨床におけるリアルワールドデータ (RWD) の収集体制と利活用の推進が、今後の国民健康の向上と医療開発の推進にとって重要な課題です。

京都大学医学部附属病院では、電子カルテデータを構造化する CyberOncology®(注1) を PRiME-R 社 (<https://prime-r.inc/>) と共同開発し、国内の25医療機関および製薬企業3社と RWD 構築のための研究プロジェクトとして『J-CONNECT』を令和5年4月より発足させ、今年度中に院内がん登録症例約20万例の RWD を構築する予定です。

また、令和6年4月に「がん診療の質の向上と研究開発に資するリアルワールドデータプラットフォーム開発」が AMED 事業 (AIMGAIN) に採択され、1) 電子カルテデータの構造化と RWD 収集プラットフォーム構築、2) RECIST 自動測定システム (Region Tracking(注2)) のクラウド化と中央画像判定プラットフォーム開発、3) ゲノム情報などのバイオマーカーのデジタル化とアーカイブシステム開発、4) CRC 業務改善や Direct data capture を可能とする治験支援システム開発など、がん医療の向上と医療開発に資するプラットフォームの構築にも取り組んでいます。

つきましては、両事業の取り組みについてご紹介するとともに、ご興味のある製薬企業様や医療系企業様ならびに医療機関様などの新規ご参画を検討いただきたく、両事業の合同シンポジウムを開催する運びとなりました。ぜひ御参加の御検討のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 開催日時

2024年10月11日(金) 15:00 - 18:00

### 開催場所

京都大学医学部構内 芝蘭会館稲盛ホール

※以下の URL の医学部構内マップにある21番の建物です。  
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r-i>

### 開催方法

WEB方式とのハイブリッド形式

### 参加登録

以下の URL もしくは右記の QR コードより、Google フォームにて、ご参加の登録をお願いいたします。  
<https://forms.gle/dYAUfQzGBHyntox8>



### ※ J-CONNECT プロジェクトについて

現在、「がん診療における RWD 収集に関する多施設共同研究 (CONNECT 試験)」として、25 の医療機関 (令和6年8月7日現在) に CyberOncology®(注1) を導入し、がん診療に関するデータ収集を進めています。また、院内がん登録データを活用した「がん診療に関する院内 RWD の網羅的収集および利活用に関する多施設共同研究 (CONNECT2)」を開始し、より大規模なデータベース化を目指しております。

これらの基盤をサステナブルなものとするため、参画医療機関と製薬企業等で「J-CONNECT」を立ち上げ、我が国における RWD 利活用推進に向けた取り組みを進めております。われわれの目指すゴールは、日常的に収集される電子カルテデータを基盤とした RWD を活用し、日々の診療において安心・安全な医療を提供するとともに効率的な医薬品等の開発を推進し国民健康に貢献することです。

(注1) CyberOncology® がん患者の診療情報を標準化・構造化して蓄積することを目的に開発された入力制御アプリケーションを主体とする電子カルテ連携システム

(注2) Region Tracking 抗がん薬等による医療開発において必要な CT 等での治療効果評価を半自動で行うシステム